



成するにはむしろ、これから大きなヤマ場を超えていかなければいけない。富士通は全力をあげてやってまいりませ」と話した。

# 現方法に見直し迫る

## 京大が 発見 新たな細胞固定条件

京都大学の楠見明弘教授らは細胞内の分子を観察するための新しい細胞固定の条件を見つけた。1960年代に開発された現在の細胞分子固定法に見直しを迫る成果で、細胞膜の研究の進展に役立ちそうだ。米科学誌ネイチャー・メソッズ電子版に4日発表する。

現在の細胞分子固定法ではホルマリンやグルタールアルデヒドなどの化合物を使って、細胞膜の

中にある膜たんぱく質の運動を止め、細胞内の目的の分子に抗体を結合させて観察している。しかし今回の研究で、現在の

上の分子が結合したり、抗体が分子の凝集を招くといった状態が観察に伴って起きていた。今回、細胞膜上の分子を1分子ずつ観察する手法により、分子の固定と抗体の結合しやすさを両立できる条件を見つけた。現在の方法よりも化合物の濃度を高め、膜たんぱく質の運動を止めるのに費やす時間を長くする必要のあることが分かった。

の図  
域覆  
全被  
本地  
日土

# だいちのデータで作成

## JAXA ネット上に無償公開

宇宙航空研究開発機構(JAXA)は地球観測衛星「だいち」の観測データをを用いた日本のほ

全域の高精度土地被覆図を作成し、インターネット上に無償公開した。一部の離島を除いた日本の

ほぼ全域を50センチ四方の細かさでネットから自由にダウンロードできる。画像枚数は計117枚で、

ユーモアがありながら、人をつなげる独